

組織評価（令和元年度実績）

評価結果

令和2年11月

国立大学法人徳島大学

組織評価の概要

1. 目的

組織評価は、徳島大学の教育研究組織の活動状況、成果、機能を点検・評価し、その評価結果を組織の機能向上、改善・見直し等に活用することを目的として実施しています。

2. 点検・評価の方法

(1) 対象期間

令和元年度実績

(2) 対象組織

(グループ1) 学部・教育部

(グループ2) 研究部及び研究所

(グループ3) 共同教育研究施設等

(グループ4) 病院

(3) 評価方法等

評価業務の徹底的な効率化を図るとともに、国立大学の新たな評価制度の観点も踏まえ、目標の達成状況や成果に基づく評価方法としました。

グループ1及び2については、評価項目の達成状況等をポイント化し、各評価項目の合計ポイントを各組織の最終評価ポイントとしています。

また、グループ3及びグループ4については、各組織から提出のあった「組織運営等状況報告書」に基づき、評価者による書面評価（5段階評価）を実施しました。

3. 評価結果

組織評価の結果は、組織の機能向上、改善、見直し等に活用するとともに、大学ホームページ等に掲載して公表することとしています。

4. インセンティブ経費

評価結果に基づき、インセンティブ経費を配分しています。

該当する組織においては、教育、研究、社会貢献分野等で成果・効果の現れるような有意義な用途に充当することとしています。

目 次

1. グループ1（学部・教育部）	1
総合科学部・総合科学教育部、医学部・医科学教育部・栄養 生命科学教育部・保健科学教育部、歯学部・口腔科学教育部、 薬学部・薬科学教育部、理工学部・先端技術科学教育部、生 物資源産業学部	
2. グループ2（研究部及び研究所）	13
社会産業理工学研究部、医歯薬学研究部、先端酵素学研究所、 ポストLEDフォトンクス研究所	
3. グループ3（共同教育研究施設等）	22
教養教育院、人と地域共創センター、情報センター、放射線 総合センター、国際センター、高等教育研究センター、環境 防災研究センター、研究支援・産官学連携センター、AWA サポートセンター、産業院、埋蔵文化財調査室、附属図書館、 キャンパスライフ健康支援センター	
4. グループ4（病院）	49

【参考資料】

- ・徳島大学組織評価実施要項

1 グループ1 (学部・教育部)

【最終評価結果】

執行部が指定する「共通項目」の達成状況等、また、各部局の強み・特色に応じて当該部局が選択した「選択項目」の達成状況等を、それぞれ点数化し、合計したものを、「達成必須項目」の未達成分を減点したものを最終評価結果とする。

評点の上位2部局にはインセンティブ経費を配分する。

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
順位	6	4	3	1	5	2
()内は昨年度順位	(3)	(5)	(1)	(1)	(6)	(4)
最終評点	31.5	33	38.5	42.5	32	40
共通項目	28	28	30	34	28	34
選択項目	9	10	9	9	6	7
共通・選択合計	37	38	39	43	34	41
達成必須項目	-5.5	-5	-0.5	-0.5	-2	-1

【評価項目別の評価結果】

評価項目ごとに評価基準及び評点を定め、各部署の実績を点数化する。

(1) 共通項目

① アクティブ・ラーニング実施率

令和2年3月31日時点

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
目標値	85%	85%	85%	85%	85%	85%
実績値	81.7%	82.9%	76.6%	87.7%	71.5%	86.1%
達成率	96.1%	97.5%	90.1%	103.1%	84.1%	101.2%
評点	6	6	6	8	6	8

【評価基準 (①)】

評価基準	評点
目標達成率120%以上	10
目標達成率100%以上120%未満	8
目標達成率 80%以上 100%未満	6
目標達成率 80%未満	4

②-A インターンシップ参加学生数 (常三島地区の学部)

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
基準値	173人				516人	4人
実績値	73人				363人	26人
達成率	42.1%				70.3%	650.0%
評点	4				6	10

②-B 国家試験合格率 (蔵本地区の学部)

	総合科学部	医学部 (医師)	歯学部 (歯科医師)	薬学部 (薬剤師)	理工学部	生物資源産業学部
基準値		92.8%	77.9%	84.9%		
実績値		92.1%	69.2%	84.6%		
達成率		99.2%	88.8%	99.6%		
評点		8	8	8		

【評価基準 (②-A・B共通)】

評価基準	評点
目標達成率100%以上	10
目標達成率80%以上100%未満	8
目標達成率 60%以上 80%未満	6
目標達成率 60%未満	4

③ 外国語で実施している授業科目（英語による授業数／専攻開設科目数）

	総合科学教育部	医学部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部	生物資源産業学部※
目標値	10%	10%	10%	10%	10%	10%
実績値	6.1%	16.9%	34.9%	49.0%	5.2%	5.4%
達成率	61.0%	169.0%	349.0%	490.0%	52.0%	54.0%
評点	2	4	4	4	2	2

【評価基準③】

評価基準	評点
目標達成率100%以上	4
目標達成率100%未満	2

※生物資源産業学部を基礎とする大学院が未設置のため
常三島地区教育部の平均値を実績値とする

④ 日本人学生の留学者数

令和元年11月1日現在

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
目標値	79人	31人	18人	3人	77人	12人
実績値	84人	22人	10人	4人	106人	10人
達成率	106.3%	70.9%	55.5%	133.3%	137.6%	83.3%
評点	8	6	4	8	8	6

⑤ 外国人留学生数（研究生等含む）

令和元年11月1日現在

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
目標値	41人	59人	22人	13人	157人	4人
実績値	54人	30人	23人	12人	118人	6人
達成率	131.7%	50.8%	104.5%	92.3%	75.1%	150.0%
評点	8	4	8	6	6	8

【評価基準④・⑤】

評価基準	評点
目標達成率100%以上	8
目標達成率70%以上100%未満	6
目標達成率 50%以上 70%未満	4
目標達成率 50%未満	2

■共通項目評点合計

項目	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
① アクティブ・ラーニング実施率	6	6	6	8	6	8
②-A インターンシップ参加学生数	4				6	10
②-B 国家試験合格率		8	8	8		
③ 外国語で実施している授業科目	2	4	4	4	2	2
④ 日本人学生の留学者数	8	6	4	8	8	6
⑤ 外国人留学生数	8	4	8	6	6	8
評点	28	28	30	34	28	34

(2) 選択項目

① 県内就職率 (学部)

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値	35.6%					
実績値	37.6%					
H29実績比	105.6%					
評点	4					

② 教員のFD参加率

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値				78.1%		95.2%
実績値				97.3%		93.0%
H29実績比				124.5%		97.6%
評点				4		3

③ 学生の学会等発表数

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
基準値		450	91		946	
実績値		648	135		1,131	
H29実績比		144.0%	148.3%		119.5%	
評点		5	5		4	

④ 学生の獲得した賞数

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
基準値	2件	6件	9件	21件	115件	0件
実績値	7件	17件	10件	29件	67件	1件
H29実績比	350.0%	283.3%	111.1%	138.0%	58.2%	—
評点	5	5	4	5	2	4

【評価基準 (選択項目共通)】

評価基準	評点
H29実績からの伸び率130%以上	5
H29実績からの伸び率100%以上130%未満	4
H29実績からの伸び率80%以上 100%未満	3
H29実績からの伸び率80%未満	2

■ 選択項目評点合計

項目	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
① 県内就職率	4					
② 教員のFD参加率				4		3
③ 学生の学会等発表数		5	5		4	
④ 学生の獲得した賞数	5	5	4	5	2	4
評点	9	10	9	9	6	7

(3) 達成必須項目

① 学生定員充足率（在籍学生数／収容定員）

令和元年5月1現在

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
評点※1	-2.5	0	0	0	0	0

※1 学部及び教育部の評点の平均点

〔学部〕

区分	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
実績値	114.3%	102.0%	98.4%	109.5%	99.3%	100.5%
評点	0	0	0	0	0	0

〔教育部〕

区分	総合科学教育部	医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部
基準値	90%	90%	90%	90%	90%
実績値	86.8%	113.7%	97.7%	101.7%	101.9%
評点	-5	0	0	0	0

【評価基準】

評価基準	評点
90%を満たしている	0
90%を満たしていない	-5

② 研究倫理教育受講率（学生）

令和2年2月時点

	総合科学部 総合科学教育部	医学部 医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	歯学部 口腔科学教育部	薬学部 薬科学教育部	理工学部 先端技術科学教育部	生物資源産業学部
評点※1	-3	-5	-0.5	-0.5	-1	-1

※1 学部及び教育部の評点の平均点

〔学部〕

区分	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
基準値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
実績値	12.6%	63.7%	100.0%	100.0%	92.3%	90.8%
評点	-5	-5	0	0	-1	-1

〔教育部〕

区分	総合科学教育部	医科学教育部 栄養生命科学教育部 保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部
基準値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値	94.5%	67.5%	91.4%	97.2%	90.4%
評点	-1	-5	-1	-1	-1

【評価基準②】

評点	評点
100%を満たしている	0
90%以上100%未満	-1
80%以上90%未満	-3
80%未満	-5

③ 実質志願倍率（学部）

平成31年度入試

	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
目標値	2倍	2倍	2倍	2倍	2倍	2倍
実績値	2.5倍	2.2倍	3.2倍	3.0倍	1.9倍	2.2倍
達成率	125.0%	110.0%	160.0%	150.0%	95.0%	110.0%
評点	0	0	0	0	-1	0

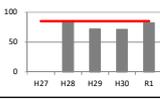
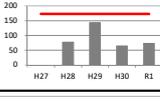
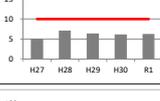
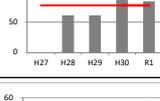
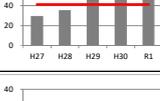
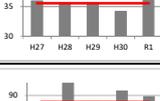
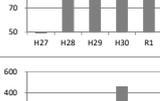
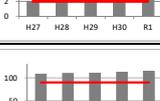
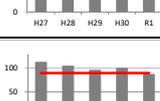
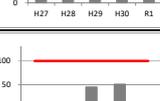
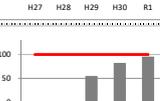
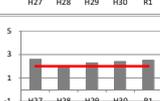
【評価基準（③）】

評点1	評点
目標達成率100%以上	0
目標達成率 95%以上 100%未満	-1
目標達成率 90%以上 95%未満	-3
目標達成率 90%未満	-5

■達成必須項目評点合計

項目	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	理工学部	生物資源産業学部
① 学生定員充足率	-2.5	0	0	0	0	0
② 研究倫理教育受講率	-3	-5	-0.5	-0.5	-1	-1
③ 実質志願倍率	0	0	0	0	-1	0
評点	-5.5	-5	-0.5	-0.5	-2	-1

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

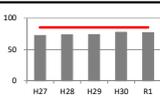
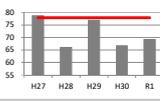
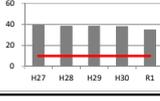
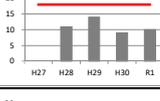
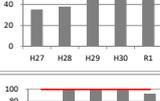
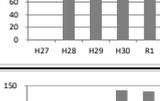
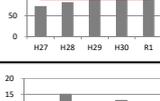
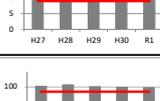
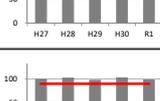
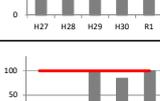
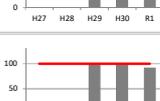
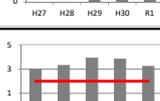
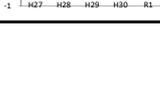
区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	—	82.4	72.0	71.2	81.7	
	インターンシップ参加学生数	学部 教育部	173人	—	77	144	64	73	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	4.9	7.0	6.3	6.0	6.1	
	日本人学生の留学者数	学部 教育部	79人	—	61	61	89	84	
	外国人留学生数	学部 教育部	41人	29	35	46	47	54	
選択項目	県内就職率	学部	35.6%	36.0	35.6	35.6	34.2	37.6	
	教員のFD参加率	研究部	84.9%	—	100.0	84.9	93.9	89.1	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	149	58	44	149	459	80	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	2	2	2	2	7	7	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90% 以上	108.2	109.1	110.2	112.5	114.3	
		教育部		113.2	104.7	96.2	100.0	86.8	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	45	51.2	12.6	
		教育部		—	—	54.5	81.2	94.5	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	2.6	1.9	2.3	2.4	2.5	

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	56.8	76.38	80.7	82.1	82.9	
	国家試験(医師)合格率	学部	92.8% 国立大平均*	91.7	91.8	88.1	91.7	92.1	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	18.5	18.3	17.9	17.8	16.9	
	日本人学生の留学者数	学部 教育部	31人	—	26	24	28	22	
	外国人留学生数	学部 教育部	59人	42	35	27	24	30	
選択項目	県内就職率	学部	35.3%	36.5	37.2	35.3	36.5	33.0	
	教員のFD参加率	研究部	89.2%	—	86.3	89.2	80.0	81.8	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	450	155	186	450	720	648	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	6	28	40	6	22	17	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90% 以上	102.1	102.6	102.4	103.0	102.0	
		医科学教育部		129.0	122.8	118.3	114.3	107.1	
		栄養生命科学教育部		132.4	143.7	133.8	131.0	128.2	
		保健科学教育部		121.7	123.2	118.8	118.8	120.3	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	94.5	98.9	63.7	
		医科学教育部		—	—	49.4	48.4	52.9	
		栄養生命科学教育部		—	—	81.7	68.9	87.1	
		保健科学教育部		—	—	65.9	85.5	82.1	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	2.7	2.6	2.9	2.3	2.2	

※厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	72	73.3	73.6	77.1	76.6	
	国家試験(歯科医師)合格率	学部	77.9% 国立大 平均*	78.7	66.1	76.9	66.7	69.2	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	39.6	38.2	38.2	38.0	34.9	
	日本人学生の留学者数	学部 教育部	18人	—	11	14	9	10	
	外国人留学生数	学部 教育部	22人	16	14	13	19	23	
選択項目	県内就職率	学部	49.1%	34.9	37.8	49.1	54.5	46.3	
	教員のFD参加率	研究部	100%	—	100.0	100.0	97.7	92.0	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	91	72	81	91	138	135	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	9	10	15	9	13	10	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90% 以上	101.0	104.1	100.3	98.7	98.4	
		教育部		98.8	101.2	96.6	102.3	97.7	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	97.2	84.8	100.0	
		教育部		—	—	98.8	100	91.4	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	3.0	3.3	3.9	3.8	3.2	

※厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

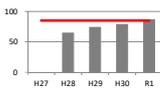
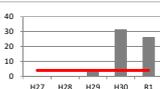
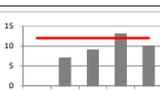
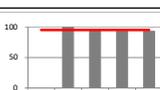
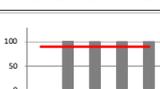
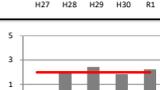
区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	65.4	73.1	76.7	85.9	87.7	
	国家試験(薬剤師)合格率	学部	84.9% 国立大 平均*	86.2	87.9	83.9	87.9	84.6	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	55.3	54.3	54.3	54.3	49.0	
	日本人学生の留学者数	学部 教育部	3人	—	3	2	4	4	
	外国人留学生数	学部 教育部	13人	9	12	10	11	12	
選択項目	県内就職率	学部	10.5%	15.0	17.9	10.5	14.0	9.3	
	教員のFD参加率	研究部	78.1%	—	100.0	78.1	94.7	97.3	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	218	134	156	218	314	247	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	21	21	26	21	32	29	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90% 以上	105.3	106.5	107.8	108.5	109.5	
		教育部		107.8	108.6	96.6	102.6	101.7	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	95.1	97.1	100.0	
		教育部		—	—	97.8	84.8	97.2	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	5.3	3.7	3.7	3.5	3.0	

※厚生労働省がホームページで公表している学校別合格者状況による

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	—	84.2	69.5	72.0	71.5	
	インターンシップ参加学生数	学部 教育部	516人	—	310	430	300	363	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	5.7	8.1	6.2	4.4	5.2	
	日本人学生の留学者数	学部 教育部	77人	—	39	59	63	106	
	外国人留学生数	学部 教育部	157人	112	115	137	160	118	
選択項目	県内就職率	学部	23.7	27.6	27.1	23.7	18.4	24.3	
	教員のFD参加率	研究部	90.2%	—	82.6	90.2	89.3	96.5	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	946	555	637	946	1,049	1,131	
	学生の獲得した賞数	学部 教育部	115	72	94	115	103	67	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90% 以上	—	101.7	102.3	100.5	99.3	
		教育部		106.9	105.1	106.9	110.1	101.9	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	91.5	87.2	92.3	
		教育部		—	—	93.7	91.4	90.4	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	—	1.7	2.6	2.0	1.9	

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	アクティブラーニング実施率	学部	85%	—	64.29	73.9	78.6	86.1	
	インターンシップ参加学生数	学部	4人	—	0	3	31	26	
	外国語で実施している授業科目割合	教育部	10%	—	—	—	—	—	
	日本人学生の留学者数	学部	12人	—	7	9	13	10	
	外国人留学生数	学部	4人	—	0	2	3	6	
選択項目	県内就職率	学部	—	—	—	—	—	37.2	
	教員のFD参加率	研究部	95.2%	—	100.0	95.2	92.9	93.0	
	学生の学会等発表数	学部 教育部	0	—	0	0	0	13	
	学生の獲得した賞数	学部	0	—	2	0	1	1	
達成必須項目	学生定員充足率 [収容数/収容定員]	学部	90%以上	—	101.0	100.0	100.3	100.5	
	研究倫理教育受講率 [学生]	学部	100%	—	—	—	99.0	90.8	
	実質志願倍率 [受験者数/合格者数]	学部	2倍	—	2.0	2.4	1.8	2.2	

2 グループ2（研究部及び研究所）

【最終評価結果】

執行部が指定する「共通項目」の達成状況等、また、各部局の強み・特色に応じて当該部局が選択した「選択項目」の達成状況等を、それぞれ点数化し、合計したのから、「達成必須項目」の未達成分を減点したものを最終評価結果とする。

評点の上位3部局にはインセンティブ経費を配分する。

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
順位	1	3	4	2
()内は昨年度順位	(1)	(2)	(3)	(-)
最終評点	32	27	25	29
共通項目	32	24	20	26
選択項目	5	6	8	8
共通・選択合計	37	30	28	34
達成必須項目	-5	-3	-3	-5

【評価項目別の評価結果】

評価項目ごとに評価基準及び評点を定め、各部署の実績を点数化する。

(1) 共通項目

① 論文数 (Scopus)

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	430件	674件	80件	194件
実績値	521件	650件	61件	132件
H29実績比	121.1%	96.4%	76.2%	68.0%
評点	6	4	4	2

② 国際共著論文数 (Scopus)

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	132件	107件	20件	36件
実績値	173件	114件	13件	30件
H29実績比	131.0%	106.5%	65.0%	83.3%
評点	8	6	2	4

③ SNIP (Scopus) ※補正を加えた論文の被引用度

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	276.0	651.0	128.1	124.2
実績値	404.2	746.2	112.1	111.1
H29実績比	146.4%	114.6%	87.5%	89.4%
評点	8	6	4	4

【評価基準 (①～③共通)】

評価基準	評点
H29実績比130%以上	8
H29実績比100%以上130%未満	6
H29実績比 70%以上 100%未満	4
H29実績比 70%未満	2

④ 外部資金獲得金額 ※科研費、受託・共同研究費

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	843,823千円	1,296,354千円	497,081千円	125,289千円
実績値	714,490千円	1,036,405千円	483,623千円	117,250千円
H29実績比	84.6%	79.9%	97.2%	93.5%
評点	6	4	8	8

【評価基準 (④)】

評価基準	評点
H29実績比90%以上	8
H29実績比80%以上90%未満	6
H29実績比 70%以上 80%未満	4
H29実績比 70%未満	2

⑤ 若手教員比率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	21%	30%	45%	17%
実績値	21%	31%	23%	54%
H29実績比	100.0%	103.3%	51.1%	317.6%
評点	4	4	2	8

【評価基準 (⑤)】

評価基準	評点
H29実績比130%以上	8
H29実績比110%以上130%未満	6
H29実績比 90%以上 110%未満	4
H29実績比 90%未満	2

■ 共通項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
① 論文数 (Scopus)	6	4	4	2
② 国際共著論文数 (Scopus)	8	6	2	4
③ SNIP (Scopus)	8	6	4	4
④ 外部資金獲得金額	6	4	8	8
⑤ 若手教員比率	4	4	2	8
評点	32	24	20	26

(2) 選択項目

① 学会発表数（国際・国内学会）

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	2,139件	2,374件	288件	397件
実績値	1,696件	2,084件	387件	397件
H29実績比	79.2%	87.7%	134.3%	100.0%
評点	3	3	5	4

② 寄附金受入金額

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値		778,053千円	107,122千円	22,992千円
実績値		697,045千円	76,489千円	23,237千円
H29実績比		89.5%	71.4%	101.0%
評点		3	3	4

③ 一般市民向け講演件数

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	187件			
実績値	109件			
H29実績比	58.2%			
評点	2			

【評価基準（選択項目共通）】

評価基準	評点
前年度比130%以上	5
前年度比100%以上130%未満	4
前年度比 70%以上 100%未満	3
前年度比 70%未満	2

■ 選択項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
① 学会発表数	3	3	5	4
② 寄附金受入金額		3	3	4
③ 一般市民向け講演件数	2			
評点	5	6	8	8

(3) 達成必須項目

① 研究倫理教育受講率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	100%	100%	100%	100%
実績値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
評点	0	0	0	0

② 情報倫理教育受講率

	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
基準値	100%	100%	100%	100%
実績値	86.0%	92.4%	94.9%	88.0%
評点	-5	-3	-3	-5

【評価基準 (①・②共通)】

評価基準 1	評点
100%を満たしている	0
95%以上100%未満	-1
90%以上95%未満	-3
90%未満	-5

■ 達成必須項目評点合計

項目	社会産業理工学 研究部	医歯薬学研究部	先端酵素学 研究所	ポストLEDフォト ニクス研究所
① 研究倫理教育受講率	0	0	0	0
② 情報倫理教育受講率	-5	-3	-3	-5
評点	-5	-3	-3	-5

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	論文数 (Scopus)	430	524	476	430	462	521		
	国際共著論文数 (Scopus)	132	154	162	132	145	173		
	SNIP (Scopus) ※1	276.0	366.1	358.2	276.0	283.2	404.2		
	外部資金獲得金額 (千円) ※2	843,823	562,218	695,762	843,823	875,407	714,490		
	若手教員比率	21%	—	—	21	18	21		
選択項目	学会発表数	国際学会	565	577	517	565	473	478	
		国内学会	1,574	1,431	1,489	1,574	1,418	1,218	
	特許	出願件数	25	47	36	25	10	15	
		取得件数	16	13	14	16	20	14	
		特許料 収入 (千円)	29,025	28,741	28,581	29,025	28,696	11,061	
	寄附金受入金額 (千円)	98,628	368,142	108,952	98,628	78,436	136,409		
	外部組織参画件数	432	397	449	432	450	478		
	公開講座担当数	25	27	34	25	18	15		
	一般市民向け講演件数	187	112	140	187	114	109		
	地域連携教育実施件数 (フィールドワーク等)	144	123	119	144	85	—		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	99.7	100.0	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	78.6	66.2	86.0		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

【H27～H30までの実績について】

組織改編による教員の異動を反映させているため、昨年度(平成31年度)実施の組織評価で示した数値と異なっている。

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	論文数 (Scopus)	674	692	708	674	572	650		
	国際共著論文数 (Scopus)	107	100	109	107	106	114		
	SNIP (Scopus) ※1	651.0	741.8	712.9	651.0	534.5	746.2		
	外部資金獲得金額 (千円) ※2	1,296,354	1,480,975	1,173,139	1,296,354	1,189,839	1,036,405		
	若手教員比率	30%	—	—	30	28	31		
選択項目	学会発表数	国際学会	368	368	405	368	377	307	
		国内学会	2,006	2,073	2,104	2,006	1,755	1,777	
	特許	出願件数	11	34	20	11	12	14	
		取得件数	17	17	2	17	8	16	
		特許料 収入 (千円)	3,260	7,454	74,584	3,260	8,706	6,770	
	寄附金受入金額 (千円)	778,053	673,274	824,012	778,053	879,602	697,045		
	外部組織参画件数	178	197	193	178	163	168		
	公開講座担当数	16	16	24	16	13	9		
	一般市民向け講演件数	76	103	95	76	91	69		
	地域連携教育実施件数 (フィールドワーク等)	37	29	33	37	41	—		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	98.2	100.0	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	65.8	74.2	92.4		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	論文数 (Scopus)	80	119	100	80	65	61		
	国際共著論文数 (Scopus)	20	21	20	20	11	13		
	SNIP (Scopus) ※1	128.1	139.5	115.7	128.1	86.2	112.1		
	外部資金獲得金額 (千円) ※2	497,081	470,999	522,754	497,081	474,022	483,623		
	若手教員比率	45%	—	—	45	29	23		
選択項目	学会発表数	国際学会	52	63	71	52	56	57	
		国内学会	236	285	250	236	207	330	
	特許	出願件数	2	7	22	2	5	2	
		取得件数	5	9	24	5	8	0	
		特許料 収入 (千円)	2,933	56	43	2,933	120	1,076	
	寄附金受入金額 (千円)	107,122	134,262	69,090	107,122	83,123	76,489		
	外部組織参画件数	31	35	34	31	31	37		
	公開講座担当数	—	2	—	—	—	1		
	一般市民向け講演件数	62	88	68	62	82	66		
	地域連携教育実施件数 (フィールドワーク等)	—	—	—	—	—	—		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	67.0	80.4	94.9		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

選択項目のうち、令和元年度に選択していない項目

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
共通項目	論文数 (Scopus)	194	145	159	194	200	132		
	国際共著論文数 (Scopus)	36	18	40	36	45	30		
	SNIP (Scopus) ※1	124.2	107.1	111.8	124.2	105.2	111.1		
	外部資金獲得金額 (千円) ※2	125,289	154,612	129,082	125,289	135,346	117,250		
	若手教員比率	17%	—	—	17	17	54		
選択項目	学会発表数	国際学会	113	103	96	113	108	115	
		国内学会	284	253	295	284	273	282	
	特許	出願件数	—	—	—	—	—	—	
		取得件数	—	—	—	—	—	—	
		特許料 収入 (千円)	—	—	—	—	—	1,482	
	寄附金受入金額 (千円)	22,992	8,914	4,404	22,992	12,545	23,237		
	外部組織参画件数	12	8	10	12	12	11		
	公開講座担当数	1	—	1	1	—	2		
	一般市民向け講演件数	7	—	7	7	1	5		
	地域連携教育実施件数 (フィールドワーク等)	—	—	—	—	—	—		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	—	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	—	88.0		

※1 補正を加えた論文の被引用度

※2 科研費、受託・共同研究費

【H27～H30までの実績について】

組織改編に伴う教員の異動を反映させている。

3 グループ3（共同教育研究施設等）

【最終評価結果】

評価項目の達成状況等を踏まえ、組織運営等状況報告書に基づき、評価者（学長、教育担当理事、研究担当理事、地域・産官学連携担当理事、総務・財務担当副学長）が5段階で評価し、各評価者の合計点を当該部局の最終評価結果とする。
グループ3の評点の上位4部局にはインセンティブ経費を配分する。

組織名	評点	順位		備考
			昨年	
教養教育院	18	11	11	
人と地域共創センター	24	1	5	大学開放実践センター
			6	地域創生センター
情報センター	23	3	6	
放射線総合センター	19	8	12	
国際センター	18	11	6	
高等教育研究センター	19	8	6	総合教育センター
環境防災研究センター	20	7	2	
研究支援・産官学連携センター	21	5	1	
AWAサポートセンター	21	5	2	
産業院	24	1	2	
埋蔵文化財調査室	13	13	14	
附属図書館	19	8	13	
キャンパスライフ健康支援センター	23	3	6	保健管理・総合相談センター

【評価基準（グループ3・4）共通】

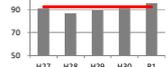
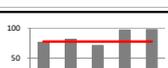
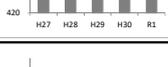
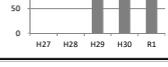
評価基準	評点
目標達成に向けた取組が、優れた成果・効果をあげている	5
目標達成に向けた取組が、着実に実施されている（標準）	4
目標達成に向けた取組が、ある程度実施されている	3
目標達成に向けた取組が、十分に実施されていない	2
目標達成に向けた取組が、実施されていない	1

組織運営等状況報告書

部局名（教養教育院）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	TOEIC-IP／TOEFL ITPの受験率及び平均点
	<p>標記試験は1年次及び3年次に受験することとしている。令和元年度は学年進行中のため1年次のみ受験であり、語学マイレージ・プログラムによる成果・効果の比較は行えないが、受験率は目標値を達成し、プログラムが学生間に浸透していることがうかがえる。</p> <p>平成27年度、平成28年度、平成29年度入学学生の得点の推移を分析した結果、TOEIC受験者には、1年次と比較し2年次の成績が10%以上上昇した者が112人（受験者の14%）、142人（12%）、155人（11%）おり、学生の英語力向上に取り組んだ成果が現れている。この傾向は、TOEFLでも見えてはいるが、10%以上の得点上昇を見せたものの人数は限られる。これは、TOEIC、TOEFLの試験の性質の違いが大きな理由だと考えられる。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	TOEIC-IP 受験率 [1年次]	92.4%	90.6	86.3	89.0	90.4	95.1	
	TOEIC-IP 平均点 [学部全学生]	392.4点	384.7	392.0	382.9	395.8	390.5	
	TOEFL-ITP 受験率 [1年次]	77.7%	76.2	81.8	71.0	97.2	97.3	
	TOEFL-ITP 平均点 [学部全学生]	467.8点	458.7	456.1	441.2	456.6	450.0	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	92.3	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	69.2	69.2	100.0	

組織運営等状況報告書

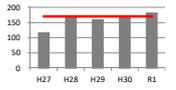
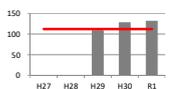
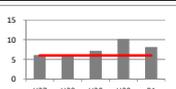
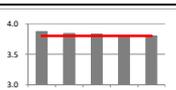
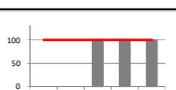
部局名（人と地域共創センター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	課題解決事業の実施状況
	<p>令和元年4月に人と地域共創センターが設置され、旧地域創生センターの取り組みを継承、拡充、発展させた地域課題解決プロジェクトを引き続き実施している。新たに3件の地域連携協定を締結するとともに、県内自治体からの連携要望事項123件（前年度108件）、大学から自治体への連携要望事項6件（前年度4件）に取り組んだ。また、本学の地域拠点である県内5ヶ所のサテライトオフィス（那賀町、上勝、美波、にしあわ、神山）では地域の特性に応じた活動を実施しており、地域を支える人材育成や課題解決の事業を行った。これらの取組の結果、令和元年度は181件の地域課題解決事業を実施し、目標値（170件）を達成できた。</p>

項目名	地域との対話の場の設定件数
	<p>地域・大学の双方が対話により学び合う「タウンミーティング」、ならびに地域社会の課題や要請に応えるため地域貢献事業の一環として実施する「地域交流シンポジウム」を、令和元年度においても継続して開催した。</p> <p>また、県内5ヶ所のサテライトオフィスを拠点とした地域課題解決の諸取組や、国立大学初の施設「フューチャーセンターA. BA」を活用したイベントの開催等、積極的に地域との交流を図った結果、目標値（112件）を上回る131件の対話の場を設定することができた。</p>

項目名	公開講座・公開授業（新設講座数6講座以上）
	<p>従来の大学開放実践センターから人と地域共創センターへの改組に伴い、新センターのメインプロジェクトとして、徳島県と連携による「とくしま健康寿命からだカレッジ」を開設した。これは、地域における健康寿命の延伸を目指して「健康寿命」、「メタボリックシンドローム予防」、「ロコモティブシンドローム予防」、「認知症予防」ほか計6分野の講座を組み合わせた計60時間の総合学習プログラムである。更に前述の4講座については単独講座としての受講も可能とし、多様なニーズに応える取り組みを行った。このほか、生涯学習研究院修了者を講師とする講座などを4講座、合計8講座を新設した。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	課題解決事業の 実施状況	170件	116	170	159	166	181	
	地域との対話の場の 設定件数	112件	—	—	108	127	131	
	新設 講座数	6講座	6	6	7	10	8	
	市民・社会人向 け公開講座・公 開授業 受講者 満足度 ※4段階評 価	3.8	3.87	3.84	3.83	3.80	3.8	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	50.0	66.7	100.0	

組織運営等状況報告書

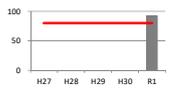
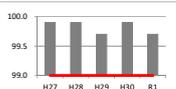
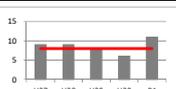
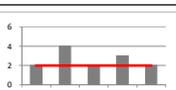
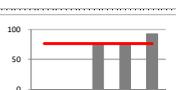
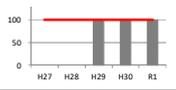
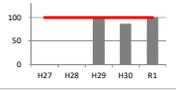
部局名 (情報センター)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	基盤サービス・ネットワーク安定提供：ネットワーク稼働率（目標値99%以上）
<p>情報基盤の主要なネットワーク機器を令和元年9月末で更新し、情報セキュリティ対策と基幹ネットワークの冗長性を強化した。また、データセンターの移転も実施して、基幹ネットワークとデータセンターの構成も整理した。</p> <p>ネットワークの安定提供について、ネットワーク移行に伴う計画停止以外には、本学を原因とする大規模（全学停止）なネットワーク障害は発生しておらず、安定したネットワーク環境を提供出来た。また、サーバ類もデータセンター及びクラウドへの移行を進めており、停電等に左右されずに主要サービスが継続的に利用できるよう整備している。</p> <p>以上の対策の結果、8,634時間という年間稼働想定に対して、稼働率99.7%（計画停止を除く場合は100%）という高品質なサービスを利用者に提供し、令和元年度の目標値99%以上を達成した。</p>	

項目名	部局等への助言型内部監査実施（目標値8部局以上）
<p>令和元年度に次に示す11部局に対し情報セキュリティ内部監査（チェックシート及び現地ヒアリング）を実施し、令和元年度の目標値8部局以上を達成した。</p> <p>①薬学部②生物資源産業学部③先端酵素学研究所④放射線総合センター⑤国際センター⑥インスティテューショナル・リサーチ室⑦医学部動物資源研究部門⑧高等教育研究センター⑨キャンパスライフ健康支援センター⑩技術支援部蔵本技術部門⑪環境防災研究センター</p> <p>内部監査を実施した結果、全体としては良好であるが、部局毎の活動については更なる改善を要する事項を発見し、助言を行った。</p>	

項目名	CSIRT関係の活動：脆弱なOS抑制（目標値1%以下）
<p>令和元年度においては、情報戦略室にてセキュリティ担保のためOS各種の利用条件、大学における脆弱OSの指標を定めた。令和2年1月14日サポート終了により、脆弱OSの対象となるWindows 7計1,263台の利用者に対しOSアップグレード、PC買替、スタンドアロン利用等で対応するよう通知し、各種対応のオンサイトサポートを実施した。また、サポート終了期日間近には情報センターにて脆弱OSを検出した未対応者304名に対し、督促メールを複数回に渡り送信し個別に対応を行った結果、サポート切れ期日時点で検出数0台となり、令和元年度の目標値である1%未満を達成した。なお、特別な事情により、Windows 7の利用が必要な19台については、マイクロソフト社による特別延長サポートの申請を行い、セキュリティが担保されているため、利用目的に限定して認めている。</p> <p>また、サーバセキュリティ診断を実施した結果、対象サーバ360台中即対応を要する脆弱性の検出は0台であったが、脆弱性について改善の必要性があるサーバの管理責任者に対し改善実施報告書の提出を依頼し、コンピュータセキュリティインシデント防止対策を行うことが出来た。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	情報化推進による情報環境 [ユーザ満足度]	80%	—	—	—	—	92.2	
	基盤サービス・ネットワーク安定提供 [ネットワーク稼働率]	99%	99.9	99.9	99.7	99.9	99.7	
	部局等への助言型内部監査実施	8部局	9	9	8	6	11	
	セミナー開催回数	2件	2	4	2	3	2	
	情報セキュリティ教育 INFOSS受講率※	76.2%	—	—	73.9	76.2	92.2	
	CSIRT関係の活動 [脆弱なOS抑制]	1%以下	—	—	—	—	0	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	85.7	100.0	

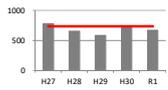
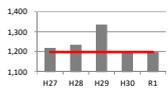
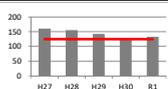
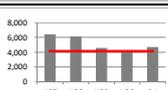
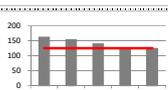
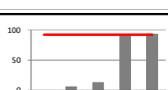
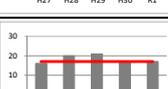
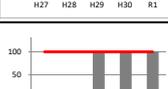
※病院以外（病院は独自に倫理教育を実施）

組織運営等状況報告書

部局名（放射線総合センター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	研究施設の使用状況
	<p>令和元年度においては、RIを使用した実験に対するハードルを下げるべく、初心者向けのRI利用方法の講習・説明を実施するとともに、利用者の希望に合わせてオリエンテーションの随時実施や研究技術相談を受けることにより、研究施設の利用回数の向上に寄与した。さらに、RI利用方法に関して令和元年度より新たに行った取り組みとして、本学では使用していない実験手法について四国RI施設ネットワークより情報を収集し、センターで初めて行うRI実験を成功に導いた。これらの結果、令和元年度の研究施設の使用回数は4,611回となり、目標値4,138回以上を達成した。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	教育訓練の実施 [受講者数]	新規教育 訓練	734人	783	653	582	734	670	
		再教育 訓練	1,198人	1,216	1,232	1,334	1,198	1,195	
	オリエンテーションの実 施 [受講者数]	125人	159	153	140	125	131		
	研究施設の 使用状況	回数	4,138回	6,362	6,079	4,521	4,138	4,611	
		使用者数	125人	162	153	140	125	125	
	研究技術相 談、支援	回数	92件	0	5	12	92	93	
	社会貢献推進 [一般向け放射線関連講 座の開催状況]	回数	17回	16	20	21	17	17	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	75.0	100.0		

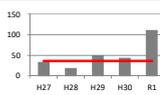
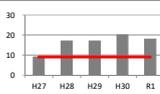
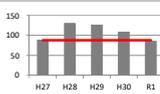
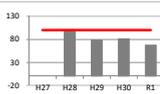
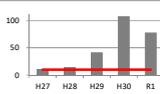
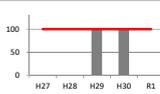
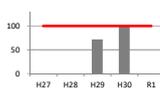
組織運営等状況報告書

部局名 (国際センター)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	外国人留学生の就職支援セミナー
<p>令和元年度は、外国人留学生のための就職支援セミナーを10回開催し、77名（他大学学生3名を含む）が参加した。（平成30年度は3回開催、22名参加）</p> <p>就職活動の基本を学ぶことに加え、インターンシップや就職時の在留資格について実施回数を増やして取り上げ、就職について様々な角度から関心を持つ留学生のニーズに応えることができたことにより、目標値10名を大幅に超えた。</p>	

項目名	外国人留学生就職支援のためのジョブフェア
<p>徳島県の委託事業である「徳島県留学生県内定着促進事業」により、令和元年7月に「留学生共同サポートセンターとくしま」が設置され、就職支援の新たな取組として、ジェトロ徳島の協力により「県内企業のジョブフェア&交流会」を実施し、26名の外国人留学生（他大学1名を含む）と9つの徳島県内企業が参加した。研修形式で行われる就職支援セミナーで学ぶことに加えて、ジョブフェアは実際に就職活動を行う機会となっており、就職支援セミナーの到達目標として位置づけている。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	学生の海外派遣者数 [短期海外語学研修]	36人	33	18	49	43	110		
	日本語教育 受講者数	日本語研修 コース	9人	9	17	17	20	18	
		総合日本語 コース	88人	88	130	126	108	85	
	日本語研修初級コース修了生 の日本語習得状況※1	100%	—	100	78.6	81.3	67.0		
	外国人留学生のための就 職セミナー参加人数	10人	10	14	41	107	77		
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]※2	100%	—	—	100.0	100.0	—		
	情報倫理教育受講率 [教員]※2	100%	—	—	71.4	100.0	—		

※1 外部日本語テスト（J-KAT）の初級修了点数を上回った修了者の割合

※2 達成必須項目である「研究倫理教育受講率（教員）」及び「情報倫理教育受講率（教員）」の令和元年度実績については、高等教育研究センターが本務先となるため、該当者なし。

組織運営等状況報告書

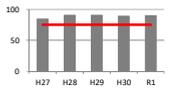
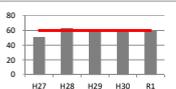
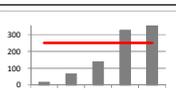
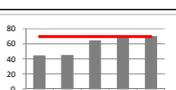
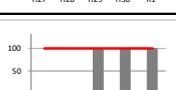
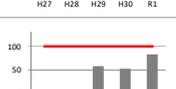
部局名（高等教育研究センター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	全学FD実施状況
<p>専門分野・カリキュラム体系の観点から教育改革の推進とその効果検証を進め、教員の職能開発の観点から大学教育再生加速プログラム事業と連携してアクティブ・ラーニングを推進することを基本方針とした。具体的には、大学における組織改革・改善を視野に置いて教育改革に関する提案や情報提供を行ったり、マクロレベルのFDとして大学執行部や学部等への提案や連携を行ったりしながら教育改革を進めるために、1) 教育改革FD、2) 教育の質保証FD、3) 教育力開発FD、4) 総括的なFDの4つの観点から全学FDを実施した。各学部等においてもFD活動に取り組んだ結果、<u>参加率は90.1%</u>であり、<u>目標値「教員参加率：75%以上」</u>を達成した。</p>	

項目名	知プラe科目への本学の学生の受講者数
<p>知プラe科目への本学の学生の受講者数は、次のとおり年々上昇傾向にある。</p> <p>平成28年度66名 平成29年度138名 平成30年度325名 <u>令和元年度452名（前年度費：140%増加）</u></p> <p>令和元年度の取組として、これまでの体制を維持し11科目（前期：1科目、後期10科目）の提供を行い、ガイダンスの回数を増やし、より良い環境の提供に加え、きめ細やかな指導に取り組んだことが一因になり受講者の増加を実現することができた。今後についても、これまでの取り組みはもちろんのこと、より良いコンテンツが提供できるよう新たな取り組み等を思案する。</p>	

項目名	キャリア支援室主催のガイダンス、セミナーの開催件数
<p>令和元年度においては、引き続き学生目線を重視し、県内就職希望者・内定者・院生・医療系向けなどの対象者別、人事担当者目線を取り入れた面接・グループディスカッション対策、出遅れ学生対策、秋冬インターンシップ対策などのきめ細やかな就職ガイダンス、セミナーを実施した。就職活動の実情や学生ニーズを考えた企画を実施した結果、<u>開催件数は70件</u>であり、<u>目標値「70件以上」</u>を達成した。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	全学FD 実施状況 教員 参加率	75%	84.2	90.3	90.4	88.6	90.1	
	入学生アンケートによる アドミッション・ポリ シーの認知状況	60%	50.4	62.8	60.2	59.0	59.0	
	アクティブ・ラーニング を導入した授業科目割合	80%	58.3	65.2	71.5	72.7	78.7	
	知プラe科目への本学の学 生の受講者数	250人	17	66	138	325	452	
	キャリア支援室主催のガイ ダンス、セミナーの開 催件数	70件	44	45	64	70	70	
共通項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	57.9	52.9	83.3	

組織運営等状況報告書

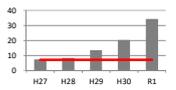
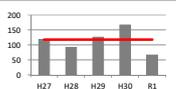
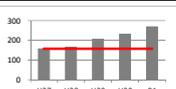
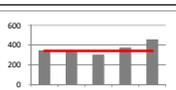
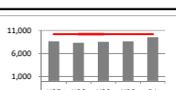
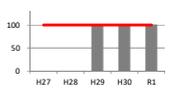
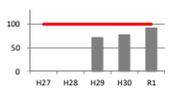
部局名（環境防災研究センター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	地域防災の啓発活動（セミナー等の開催回数）
	<p>平成31年度においては、平成30年度から新たに主催事業として開催した「とくしま大学防災Café」を「とくしま大学環境防災Café」として、一部、内容を変更して継続的に毎月開催した。防災士、建築士、自治体や企業の危機管理担当者、マスコミ関係者、学生、一般の方を対象に、環境防災研究センターのスタッフ2名が地域の環境と防災についての研究や取組みについて最新の話題を提供し、出席者全員で意見交換を行った。</p> <p>さらに、令和元年5月から本格運用が始まった南海トラフ地震に関する臨時情報の内容と活用方法を周知するため、徳島県及び市町の協力を得て、14自治体で防災・減災キャラバン「南海トラフ地震に備える」を主催事業として開催した。</p> <p>これらの取組の結果、平成31年度の実施回数は34回となり、目標値（H27、7回）を386%増加となり大幅に目標達成した。</p>

項目名	セミナー等における講師等派遣者数
	<p>平成31年度においては、主催事業として実施した防災・減災キャラバン（県内14箇所で開催）に講師を派遣した。また、四国放送テレビ「フォーカス徳島」で津波啓発シリーズのコーナー（隔週火曜日放送）とNHK徳島放送局「とく6徳島」防災八十八話（毎週月曜日放送）、FMとくしま Morning Compass「防災Café」（毎月第4火曜日）の番組制作に協力し、毎回、専門家として派遣した。さらに徳島県、香川県、愛媛県で開催された防災士養成講座等にも従来以上に積極的に講師を派遣した。</p> <p>これらの取組の結果、平成31年度の講師等派遣者数は268人となり、目標値（H27、157人）を71%増加となり目標達成した。</p>

項目名	徳島大学防災リーダー講座及び徳島県地域防災推進員養成講座修了者数
	<p>平成31年度においては、学生が教養科目「防災・減災基礎」を履修して認定される徳島大学防災リーダー認定者が、95人（H30）から115人に増加したことに加え、徳島県地域防災推進員養成講座の募集枠を拡大したことにより、同講座修了生は長期講座が29人（H30）から34人、短期講座が108人（H30）から134人、県職員対象が136人（H30）から169人と各講座での修了生が増加することになった。</p> <p>これらの取組の結果、平成31年度の修了者数は452人（H30から84人増）となり、目標値（H27、342人）の32%増加となり、目標達成した。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	地域防災の啓発活動 [セミナー等の開催回数]	7回	7	8	13	20	34	
	地域防災の支援活動 [支援活動の実施回数]	118件	118	92	126	166	66	
	セミナー等における講師 等派遣者数	157人	157	165	206	231	268	
	徳島大学防災リーダー講座 及び徳島県地域防災推進員養成講座 修了者数	342人	342	341	298	368	452	
	受託事業受入状況 (千円)	10,189	8,491	8,179	8,429	8,509	9,359	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	71.4	77.8	91.7	

組織運営等状況報告書

部局名（研究支援・産官学連携センター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	共同研究受入状況
	<p>令和元年度においては、「組織」対「組織」の産学連携体制強化により、戦略的に共同研究等の外部資金を獲得するため、大学版SBIR制度を推進するとともに、大学発ベンチャー企業の設立支援等を通じて地域を活性化することを目指して、研究支援・産官学連携センター産官学連携部門の機能強化を図っている。また、共同研究等の産官学連携活動を推進するため、学術指導制度の導入準備を行った。さらに「産業院」と連携した活動により、令和元年度の共同研究費受入件数及び金額は、それぞれ312件及び533,151千円と目標値（275件：H27年度比1.1倍）を達成するとともに、過去最高であったH30年度の実績をさらに更新した。</p>

項目名	大学発ベンチャー企業の起業数
	<p>令和元年度においては、研究支援・産官学連携センター産官学連携部門の機能強化を行い、大学発ベンチャー企業の設立支援等を図っているほか、POC支援として「産学連携研究者育成支援事業」を実施、2件を採択し、大学発ベンチャー企業の育成支援を行った。また、「産業院」と連携し、産業院「教育・経営支援部門」設置し、教養教育イノベーション教育科目3講義（2単位）を開講、さらにスタートアップスタジオ「U-tera」を開設し、学生の起業家教育に注力した結果、1社の学生ベンチャー企業が設立された。令和元年度において、大学発ベンチャー企業の起業数は5社となり、目標値（2社以上）を大きく上回る成果を上げ、第3期中期計画として掲げた第3期中期目標期間中の新規大学発ベンチャー設立数（目標：10社以上）を前倒して達成（実績：15社）した。</p>

項目名	研究推進、産学連携セミナーの開催件数
	<p>令和元年度においては、外部資金獲得に資する説明会（JSPS、JST、AMED、総務省、NEDOの公募事業に関するもの及び製薬企業合同説明会など）を積極的に開催し、目標値（12件）を大幅に上回る開催数（26件）となっている。</p> <p>特に科研費獲得に向けた支援に注力し、9月に外部講師を招き計画調書作成に関するセミナーを実施するとともに、連動してのべ33名の若手を中心とした教員に対して科研費調書のブラッシュアップを実施した結果、令和2年7月1日の時点で基盤B、C、若手研究など17件の採択があり採択率は50%を超えている。これは本学全体の採択率（約34%）を上回るものであり、本学の外部資金獲得および若手研究者の研究力向上に貢献している。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	共同研究 受入状況	件数	275件	250	272	272	305	312	
		金額 (千円)	474,928	431,753	367,588	492,203	492,707	533,151	
	受託研究 受入状況	件数	257件	234	235	195	195	172	
		金額 (千円)	1,149,313	1,044,830	939,269	1,083,516	1,171,210	846,463	
	大学発ベンチャー企業の 起業数	2社	—	—	2	2	5		
	研究推進、産学連携セミ ナー等の開催件数	12件	9	5	9	13	26		
知的財産権等収入 (千円)	20,000	36,790	103,210	35,400	37,520	20,392			
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	93.3	90.5	90.3		

組織運営等状況報告書

部局名（AWAサポートセンター）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	男女共同参画推進にかかる支援活動・啓発・広報活動 及び女子学生・女性研究者のキャリア支援活動
<p>R1年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためシンポジウムは中止したが、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型) [2018-2023]の事業における四国ダイバーシティ推進委員会（連携9機関）の代表機関として、研究交流発表会及び情報交換会、リーダー育成セミナーを2件開催・運営し、活動実績目標1件以上を上回った。さらに、裾野拡大事業の啓発・広報活動として、女子学生・女性研究者のキャリア支援活動に係るセミナーを4件開催、新たに日経ウーマノミクスフォーラムに出展し、「印象に残ったブース」で14機関中3位を獲得した。目標値の利用者アンケートにおける高評価80%以上をすべて達成し、全体の平均実績値は93.4%と高い評価を得ることができた。</p>	

項目名	女性研究者の研究力向上にかかる支援活動（共同研究支援、支援員配置、研究力向上セミナーの開催）
<p>女性研究者の研究力向上にかかる支援活動は、研究力向上セミナー（英語論文セミナー2回、統計セミナー2回、クラウドファンディング講演1回）の計5回を開催し、目標値の利用者アンケートにおける高評価80%以上をすべて達成し、全体の平均実績値は92.7%と高い評価を得た。さらに、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）により、ライフイベント中の女性研究者15名に研究支援員の配置を行うことができた。これらの研究支援を活かすため、2019年度も連携9機関によるダイバーシティ推進共同研究制度の公募を実施し、新規2件が選定され、昨年度からの継続5件と合わせて合計7件の共同研究プロジェクトを支援することができた。</p>	

項目名	ワークライフバランス支援にかかる施策の実施（Kids Club、介護セミナー・男性育児家事推進セミナーの開催、セミナーでの託児設置）
<p>ワークライフバランス支援にかかる施策の実施は、Kids Club3回（春・夏・冬長期休暇中）計12日、大学入試センター試験実施時託児2日、セミナー開催時預かり保育4回、介護支援セミナー1回、男性育児・家事推進セミナー1回を実施した。</p> <p>目標値の利用者アンケートにおける高評価80%以上を上回りすべて90%以上の実績値で、全体の平均実績値は96.9%と高い評価を得ている。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	女性研究者の 割合	上位職 比率	13.0%	11.5	11.9	12.6	12.9	12.8	
		在職比率	20.8%	20.8	21.1	20.5	20.6	19.9	
	開催件数	1件	1	1	2	2	2		
	男女共同参画推 進にかかる支援 活動・啓発・広 報活動※1	アンケートにお ける評価80%以 上の件数(H27- 29)	—	1	1	2	—	—	
	アンケートにお ける高評価	80% 以上	—	—	—	95.9	94.4		
	女性研究者の研究力向上 にかかる支援活動※1 (共同研究支援、支援員配置、研究 力向上セミナーの開催)	80%	—	開催件数 3件 80%以上 3件	開催件数 2件 80%以上 2件	開催件数 4件 80%以上 4件	88.3	92.7	
	女子学生・女性研究者の キャリア支援活動※1 (リーダー研修・キャリア支援セミ ナー・裾野拡大セミナー等の開 催、女性メンター制度)	80%	開催件数 3件 80%以上 3件	開催件数 2件 80%以上 2件	開催件数 5件 80%以上 5件	86.8	92.1		
ワークライフバランス支 援に係る施策の実施※2 (Kids Club、介護セミナー・男性 育児家事推進セミナーの開催、セ ミナーでの託児設置)	80%	開催件数 4件 80%以上 4件	開催件数 5件 80%以上 5件	開催件数 5件 80%以上 5件	90.1	96.9			
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	—	—	100.0		
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0		

※1 支援活動に対する利用者アンケートの高評価

※2 施策に対する利用者アンケートの高評価

組織運営等状況報告書

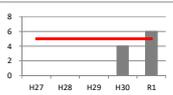
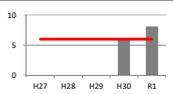
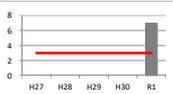
部局名 (産業院)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	支援体制の強化による産学連携の推進
<p>令和元年度は、教育・研究成果の迅速な事業化・産業化を目指す産業院教員を新たに2名選考するとともに、産業院教員専属の産学連携コーディネータを2名雇用し、優れた研究成果の社会実装が見込まれる産業院教員の産学連携活動を推進した。</p> <p>この体制で共同研究の締結、競争的資金への申請、ベンチャー企業の設立等の各教員に合わせた伴走支援を重点的に行った結果、「組織」対「組織」の産学連携による間接経費の割合が高い共同研究契約の締結等に貢献した。</p>	

項目名	アントレプレナーシップ教育の推進及び支援体制強化
<p>地域に新産業を創出する人材の育成、起業意識をもった学生の教育を行うため、教養教育院と創新教育センターと連携し、3つの授業（「次世代事業創造実践」、「イノベーションチャレンジクラブ」、「起業を知ろう」）を開講した。</p> <p>10月には、スタートアップを連続的に生み出し成長させるための組織（スタートアップ・スタジオ「U-tera」）を設置し、起業を目指す学生のメンタリングやアドバイスを実施した。</p> <p>アントレプレナーシップ教育の推進及び支援体制を強化した結果、在学生初のベンチャー起業が1件設立され、学生のビジネスアイデアのコンペティション「Matching HUB Business Idea & Plan Competition」にて「給餌装置」を提案し、最優秀賞、NEDO賞、JBMC賞の3賞を受賞した。また、講義を受けた学生が、「とくしま創生アワード2019」にて、学生賞を受賞した。</p>	

項目名	企業との連携強化
<p>11月に産業院セミナーを開催し、新しく開設した教育・経営支援部門の取組みや連携協定を結んだ企業と産業院との産官学連携の取組みを紹介する場を設け、講演を実施した。（セミナーでは企業関係者、行政関係者、大学関係者など135名の参加があった）。</p> <p>また、大学の研究開発シーズを展覧会等で紹介し、研究施設の見学会を行うことで、「組織」対「組織」の産学連携の取組みを知ってもらう機会を積極的に設けた。このような取組みを行った結果、企業と包括連携協定を締結し、大型共同研究へとつなぐことができた。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	産業院（企画戦略部門） が伴走支援するプロジェ クト数	5	—	—	—	4	6	
	産学連携、起業・経営人 材育成等産業院セミナー の開催件数	6件	—	—	—	6	8	
	連携協定実施件数	3件	—	—	—	—	7	
達成必須 項目	研究倫理教育受講率 [教員] ※	100%	—	—	—	—	—	
	情報倫理教育受講率 [教員] ※	100%	—	—	—	—	—	

※専任の教員がないため該当者なし

組織運営等状況報告書

部局名（埋蔵文化財調査室）

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。（最大3項目、各最大300字程度まで）

項目名	発掘調査件数
	<p>蔵本地区にて、寄宿舍棟の工事に伴って発掘調査1件を実施した。約1000㎡以上にも及ぶ広大な面積にもかかわらず、SfM/MVSといった最新の三次元モデル作成ソフトウェアを活用することによって、調査期間を大幅に短縮することができた。調査の結果、弥生時代初期の居住地を取り囲む大溝の一部が確認され、徳島で水稻農耕を始めた当初の集落像がより鮮明となった。考古学研究に大きく貢献する土器・石器などの貴重な資料も多数得られた。この件の調査については、クラウドファンディングの支援金などを用いて、今年度末までに報告書を刊行予定である。また、その成果については、今後、展示会などの開催を通じて、市民に広く公開する。</p>

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	発掘調査報告書の刊行数	1冊	1	1	1	0	0	
	ライフライン等整備に伴う工事立会調査件数	10件	7	3	10	7	2	
	発掘調査件数	1件	0	1	1	2	1	
	展示会の開催件数	1件	3	2	1	0	0	
	資料調査協力件数	5件	12	6	4	3	0	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	

組織運営等状況報告書

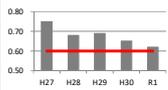
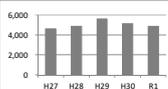
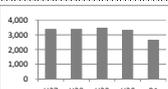
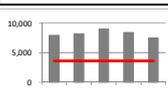
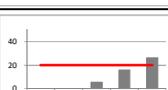
部局名 (附属図書館)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	学生1人当たり月間貸出冊数
<p>令和元年度は、学生のニーズに応じた選書のために書店でのブックハンティングを本分館計5回実施するとともに、年間を通じて学生リクエストをweb等で受け付けた。英語多読コーナーでは毎週1回、外国人教員1名が滞在して英語学習教材等について相談に対応した。また、学生後援会補助及び「古本募金」収益の一部で電子書籍等を購入し、学生用図書の実質を図った。</p> <p>その他、返却延滞解消により次の利用者への貸出を促すために、返却期限日の2日前に図書館システムから通知メールを自動発信する仕組みを開始した。</p> <p>以上の取組により、学生の貸出冊数は月間1人当たり0.62冊となり同規模大学平均0.60冊を上回った。</p>	

項目名	学外者の貸出冊数
<p>令和元年度は、連携協定を結んでいる徳島県立図書館や徳島市立図書館、鳴門教育大学附属図書館へ当館の図書館利用案内や、資料展示会、学術講演会等の案内を配布して一般利用が可能であることの広報を行うとともに、参考調査等にも対応した。</p> <p>また、保護者を通じて関連する方々へ向けて、貸出や文献検索等の図書館で利用可能なサービスについてのパンフレットを作成し、「とくtalk」と一緒に送付した。</p> <p>これらの取組の結果、同規模大学平均の年間貸出冊数3,607冊の約2倍の7,486冊となり、大規模大学1大学あたり7,288冊よりも多くの図書を学外者に貸出している。</p>	

項目名	学術論文のリポジトリ登録率 (EDBにおけるリポジトリ登録率)
<p>EDBにおけるリポジトリ登録率 20%以上の目標に対し、登録率は26%となり、目標を達成することができた。</p> <p>リポジトリ登録の推進を図る取組として、EDBの業績登録時に論文ファイルを機関リポジトリにアップロードをさせるためのシステム連携を平成30年度から準備し、令和元年7月に本稼働させた。さらに、10月には、RPA (Robotic process automation) を活用して、リポジトリ未登録論文についての登録推奨メールの発信を開始した。以上の取組により、教員が簡便にリポジトリ登録できる機会を増やしたことが、目標達成に繋がったと考えられる。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	学生1人当たり月間貸出冊数 [人/冊]	0.60冊※1	0.75	0.68	0.69	0.65	0.62		
	学外者の貸出冊数	本館	—	4,590	4,865	5,587	5,104	4,863	
		分館	—	3,359	3,360	3,445	3,301	2,623	
		合計	3,607冊※1	7,949	8,225	9,032	8,405	7,486	
	学术论文のリポジトリ登録率 (EDBにおけるリポジトリ登録率)	20%	—	—	5.4	15.7	26.0		
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員] ※2	—	—	—	—	—	—		
	情報倫理教育受講率 [教員] ※2	—	—	—	—	—	—		

※1 学術情報基盤実態調査B区分平均

※2 倫理教育については、本務先で計上

組織運営等状況報告書

部局名 (キャンパスライフ健康支援センター)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	学生定期健康診断受診率
令和元年度においては、定期健康診断受診率向上に向けて、学生の授業スケジュールに合わせた学部との細かい日程調整、常三島地区での健診日の一斉放送、健診時間外でも身長体重、血圧、視力等自動測定項目は自由に実施可能とする、などの取組みを行い、学部生に関しては、75.4%と前年度同様であったが、学生全体では69.7%から70.7%と増加して目標を達成した。	

項目名	学生精神健康調査回収率
令和元年度においては学部新生を対象に健康診断時に合わせて精神健康調査を実施、回収した。学部オリエンテーションでの周知依頼、健診時の提出の呼びかけなどにより1356名中1270名より提出があり、回収率は94%で目標の90%以上を達成した。このうち、精神健康調査の結果から37名(調査受検者の3%)に対して面接を実施し支援を行うことができた。	

項目名	学生向け予防啓発活動(グループ活動)
学生向け予防啓発活動として、グループワーク「ほっとの会」(開講期間中、月1回開催)を9回、茶話会「ほっとカフェ」(開催期間中、月2回開催)を14回、計23回実施し、目標値の「20回以上」を達成することができた。	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移
			H27	H28	H29	H30	R1	
選択項目	学生定期健康診断受診率	70%	69.4	68.5	69.6	69.6	70.7	
	学生精神健康調査回収率	90%	86.0	95.0	97.0	95.0	94.0	
	学生定期健康診断事後指導率	90%	91.2	96.6	88.1	91.6	100.0	
	学生向け予防啓発活動	20回	36	48	36	23	23	
	教職員向け予防啓発活動	5回	10	14	4	10	5	
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	100.0	100.0	100.0	
	情報倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	60.0	60.0	100.0	

4 グループ4（病院）

【最終評価結果】

評価項目の達成状況等を踏まえ、組織運営等状況報告書に基づき、評価者（学長、教育担当理事、研究担当理事、地域・産官学連携担当理事、総務・財務担当副学長）が5段階で評価し、各評価者の合計点を当該部局の最終評価結果とする。

組織名	評点
病院	20

【評価基準（グループ3・4共通）】

評価基準	評点
目標達成に向けた取組が、優れた成果・効果をあげている	5
目標達成に向けた取組が、着実に実施されている（標準）	4
目標達成に向けた取組が、ある程度実施されている	3
目標達成に向けた取組が、十分に実施されていない	2
目標達成に向けた取組が、実施されていない	1

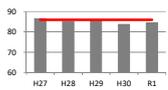
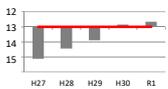
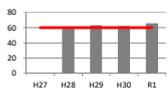
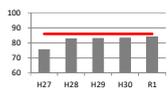
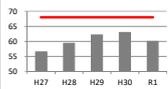
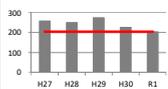
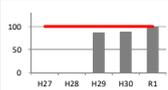
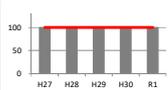
組織運営等状況報告書

部局名 (病院)

評価項目の令和元年度実績に係る目標の達成状況等を踏まえ、目標達成に向けた特筆すべき取組、優れた成果・効果が表れた取組等について、簡潔に記載してください。(最大3項目、各最大300字程度まで)

項目名	平均在院日数
<p>平均在院日数とは、病院全体における1患者の平均的な入院期間(退院日を除く)であり、短いほど低侵襲な医療、効果的な医療を提供していることになる。また、平均在院日数を短縮すると診療単価が上昇する傾向となる。</p> <p>本院では、①病院運営会議で直近の実績値の周知、②病院長ヒアリングで過去の実績や各診療科の状況を確認し情報共有をしたこと、③現在1台保有する手術支援ロボットについて、連携医療機関の川島病院と協議を行い、令和元年12月28日から令和3年6月30日までの間、無償で1台借受けたことで泌尿器科分野等で更に低侵襲医療の提供が可能となり、令和2年1月からの3か月間では前年度比31件増の手術を実現したこと等により、目標を達成することができた。</p>	

項目名	DPCⅡ期以内での退院率
<p>DPCとは、診療毎に分類された1日あたりの包括支払い制度であり、Ⅱ期以内退院率を向上させることで診療単価が上昇することになる。</p> <p>本院では目標を達成するため、症例毎に設定されているⅠ、Ⅱ、Ⅲ期の入院期間と各診療科のⅡ期以内の退院率を調査した。</p> <p>その結果を定期的に院内に周知することでⅡ期以内退院率の認識を促すとともに、Ⅱ期の入院期間に近づけるために可能な範囲で治療方針を変更したこと等により、DPCⅡ期以内退院率が61.2%から64.8%へと向上し、目標を達成することができた。</p>	

区分	評価項目	基準 目標	実績					経年推移	
			H27	H28	H29	H30	R1		
選択項目	病床稼働率	86%	86.47	85.05	85.85	83.66	84.50		
	平均在院日数	13日以下	15.13	14.46	13.91	12.86	12.67		
	DPCⅡ期以内での退院率	60%	—	57.7	62.3	61.2	64.8		
	紹介率 逆紹介率	紹介率	86%	75.4	82.6	83.0	83.2	84.0	
		逆紹介率	68%	56.4	59.3	62.1	62.9	60.0	
	査読のある論文に掲載された英語論文件数	205件	259	251	275	227	204		
達成必須項目	研究倫理教育受講率 [教員]	100%	—	—	85.9	87.6	98.6		
	情報倫理教育受講率 [教員] ※	100%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		

【参考資料】

徳島大学組織評価実施要項

令和元年6月14日
学長 裁定
改正令和2年10月7日

1. 目的

組織評価は、徳島大学の教育研究組織の活動状況、成果、機能を点検・評価し、その評価結果を組織の機能向上、改善・見直し等に活用することを目的とする。

2. 対象組織

組織評価の対象組織及びグループ分けは、「組織評価対象部局一覧(別表)」のとおりとする。

3. 実施時期

組織評価は、毎年度実施する。

4. 対象期間

組織評価の対象期間は、原則、当該評価年度の前年度とする。

5. 評価対象

組織評価の評価対象は、グループに応じ、次のとおりとする。

(1) 評価項目の達成状況等

グループ1及び2については、評価項目の達成状況等を評価対象とする。

また、評価項目は次の区分によりグループ又は組織毎に指定・選択する。

ア. 共通項目 グループ毎に執行部が指定する評価項目の達成状況等

イ. 選択項目 各部局の強み・特色に応じて、当該部局が選択した評価項目の達成状況等

ウ. 達成必須項目 一定の水準を定め、達成されていない場合はポイントを減算する

(2) 評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等

グループ3及び4については、評価項目の達成状況を踏まえた特記事項等を評価対象とする。また、達成必須項目が達成されていない場合はポイントを減算して評価する。

6. 評価方法等

組織評価の評価方法は、書面評価により次のとおり実施する。

(1) 評価項目の達成状況等

評価項目に応じ、基準値比較、経年比較、目標値比較、部局比較により実績をポイント化し、各評価項目の実績ポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。

(2) 評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等

組織運営等状況報告書に基づき、評価者が5段階で評価し、各評価者のポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。

7. 評価結果の活用

組織評価の結果は、組織の機能向上、改善、見直し等に活用するとともに、経費配分の算定に反映させる。

8. 評価結果の公表

組織評価の評価結果は、大学HP等に掲載して公表する。

組織評価対象部局一覧

グループ	組織名
グループ 1 (学部・教育部)	総合科学部、創成科学研究科（地域創成専攻・臨床心理学専攻）※ 1、総合科学教育部
	医学部、医科学教育部、栄養生命科学教育部、保健科学教育部
	歯学部、口腔科学教育部
	薬学部、薬科学教育部
	理工学部、創成科学研究科（理工学専攻）※ 1、先端技術科学教育部
	生物資源産業学部、創成科学研究科（生物資源学専攻）※ 1
グループ 2 (研究部・研究所)	社会産業理工学研究部
	医歯薬学研究部
	先端酵素学研究所
	ポストLED フォトニクス研究所
グループ 3 (共同教育研究施設等)	教養教育院
	人と地域共創センター
	情報センター
	放射線総合センター
	国際センター※ 2
	高等教育研究センター
	環境防災研究センター
	研究支援・産官学連携センター
	AWA サポートセンター
	先端研究推進センター※ 1
	デザイン型 A I 教育研究センター※ 1
	産業院
	バイオイノベーション研究所※ 1
	埋蔵文化財調査室
附属図書館	
キャンパスライフ健康支援センター	
グループ 4	病院

(※ 1 令和 2 年度実施の組織評価（令和元年度実績分）においては対象外

※ 2 令和 2 年度実施の組織評価（令和元年度実績分）まで対象）

組織評価の概要図 (令和2年度組織評価)

評価対象

グループ1

グループ2

グループ3

グループ4

評価項目の達成状況等

	評価項目			
	グループ1		グループ2	
		P		P
共通項目	アクティブラーニング実施率	10	論文数 (Scopus)	8
	インターンシップ参加 学生数 (常三島)	10	国際共著論文数 (Scopus)	8
	国家試験合格率 (蔵本)		SNIP (Scopus)	8
	外国語で実施している 授業科目割合	4	外部資金獲得金額	8
	日本人学生の留学生数	8	若手教員比率	8
	外国人留学生数	8		
選択項目	部局選択項目1	5	部局選択項目1	5
	部局選択項目2	5	部局選択項目2	5
達成必須項目	学生定員充足率	-5	研究倫理教育受講率	-5
	研究倫理教育受講率	-5	情報倫理教育受講率	-5
	実質志願倍率	-5		
最終評価ポイント			50	

組織運営等状況報告書

各部局毎に設定されている評価項目の達成状況等を踏まえた特記事項等を記載。

- ・目標達成に向けた特筆すべき取組
- ・優れた成果・効果が表れた取組や特徴的な取組 等

評価者	学長	理事	理事	理事	副学長 総務・財務担当	最終評価 ポイント
ポイント	5	5	5	5	5	25

達成必須項目	研究倫理教育受講率
	情報倫理教育受講率

達成必須項目が達成されていない場合はポイントを減算して評価する

評価項目の実績をポイント化

- 評価項目に応じ、基準値比較、経年比較、目標値比較、部局比較を行い、その実績をポイント化。
- 各評価項目の実績ポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。(50点満点)

評価者による評価

- 評価者は組織運営等状況報告書に基づき、5段階で評価。
- 各評価者のポイントの合計を当該部局の最終評価ポイントとする。